

配電設備の耐塩対策

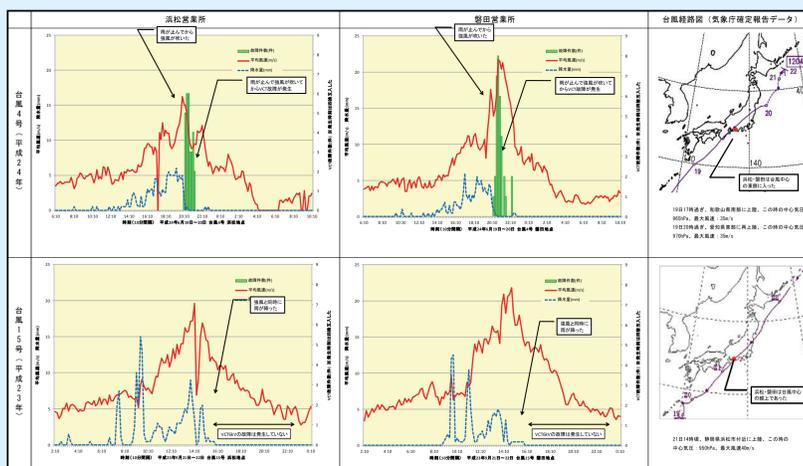
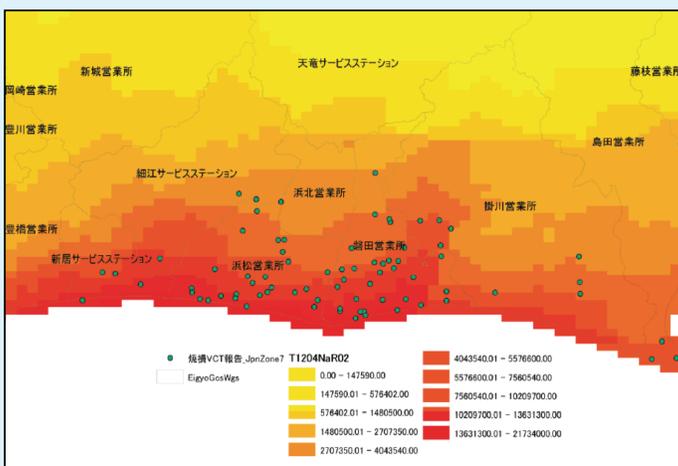
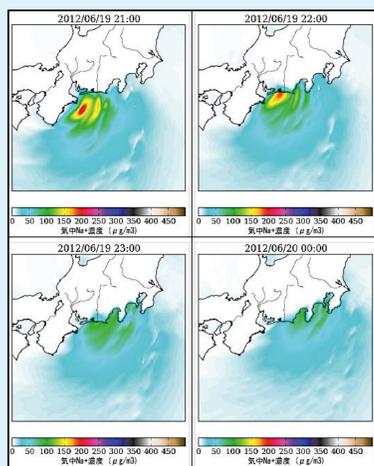
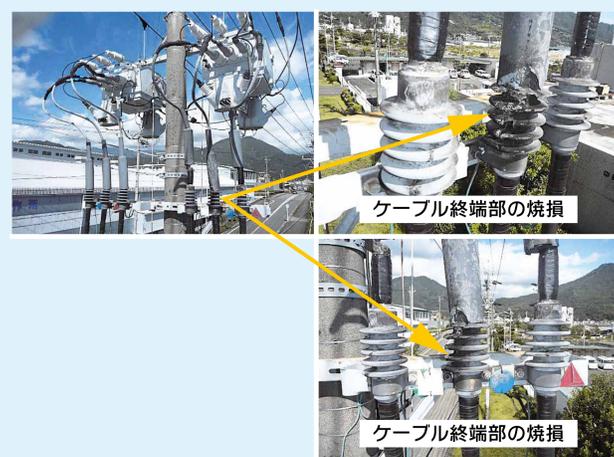
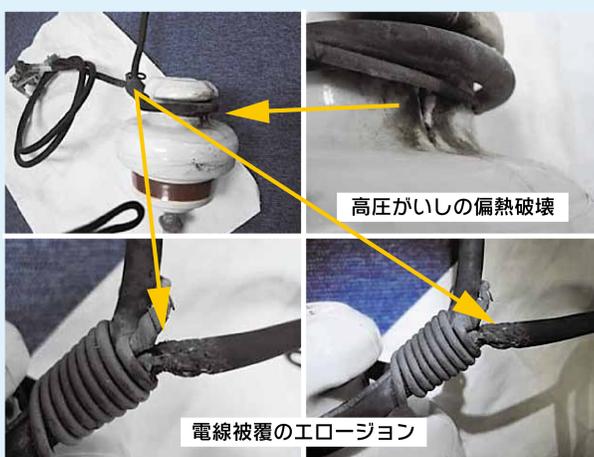
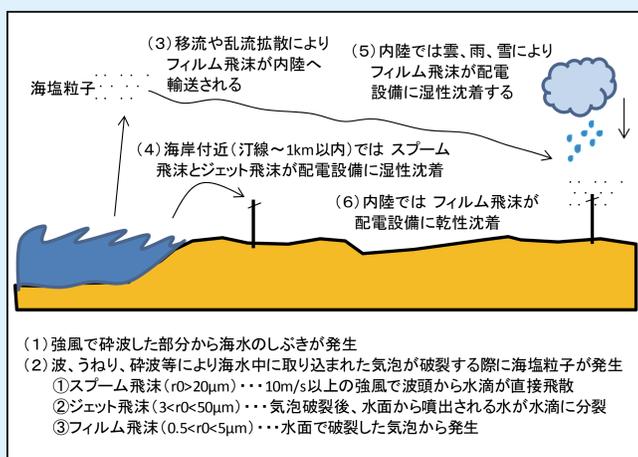
配電設備を塩汚損から守っています

背景・目的

- 台風などで海から運ばれる海塩粒子が配電設備に付着すると、故障停電が発生したり、電線被覆やカバーなどの樹脂材料が焼損したり、碍子のような磁器材料が破損する設備被害が発生します。中部電力ではこうした塩汚損による被害を防止するために海岸付近の配電設備に耐塩対策を行って、設備取替費用の抑制や故障停電の防止を図ってきました。平成24年の台風4号と17号の襲来時には、非常にまれな気象条件と内陸部への塩汚損による被害が発生しました。配電設備の耐塩対策と被害の概要について報告します。

特長

- 海岸付近では碍子の保護面を塩汚損から守る塩風受皿を取付しています。
- 開閉器や変圧器のブッシングには防塩皿を取付しています。
- 台風4号発生時の大気中Na⁺濃度分布をコンピュータシミュレーションで再現・確認しました。
- 台風4号の被害発生後に現場調査を行って貴重なデータを蓄積しました。



大気中のNa⁺濃度分布(2012年台風4号)

Na⁺フラックス濃度の分析(雨洗効果考慮なし)

開発者のひとこと

気中海塩濃度などのコンピュータシミュレーションは、電力中央研究所殿のご協力によって実現することができました。大変感謝しております。